



〇二三年のオープン以来、常に新しいニュースを発信し、ファンを増やし続けている五島つばき蒸溜所。二〇二五年には事業で使用する電力の全てを五島産の再生可能エネルギーに転換し、二酸化炭素排出量の実質ゼロを達成。日本初の再生可能エネルギーのみで稼働する蒸溜所となった。生産量を増やし、新たに三名のスタッフを迎え、企業として大きく成長し続けている今の心境を尋ねると、代表を務める門田クニヒコさんからは意外な答えが返ってきた。「私たちは地元の誇りを美味しさに変えたいと思い、福江島にやって来ました。その想いに嘘はありませんが、いま振り返ると、自分たちが島を盛り上げるんだ、というおこがましい気持ちがあったように思います。移住して四年が経ち、そのことを痛感します。よく、地方には未来がない」という言葉を聞きますが、私はそうは思いません。ここに住んで、愛を持って周りを見渡してみると、豊かな自然の中で手仕事的气息が、文化が育まれていることがよく分かります。

ます。この宝のような風土を本当の意味で理解できたからこそ、その魅力をお酒で表現したいと強く思うようになりました。

雇用が創出できたことに関しても、あくまで謙虚だ。「島には確かに人口流出という問題があります。ですから雇用が増えたことで、人口問題の解決に一役買っているとと言われることもあります。しかし私たちは課題を解決したくて、新しいスタッフを入れたわけではありません。スタートは、もともとたくさんの方に幸せなお酒を届けたいという想いなんです」。門田さんは「新しい価値は、人を幸せにするとか、想いをもってつくっているとか、そういうことからし

五島  
Nagasaki Island  
Goto Islands

もう一度、会いたい

五島のジンを世界へ

五島つばき蒸溜所



新たに仲間に加わった3名の若者とともに。

鬼頭さんが「優秀で、頼もしい」と語るのは、若い2名のブレンダー候補生

新しい価値を創造しようと、三川内焼とのコラボ商品も誕生した。

「世界中の人にゴトジンを味わってもらい、この島の風景を見てほしい」と話す門田さん



か生まれたい」と力強く言い切った。  
目の前に、半泊の美しい海が広がる蒸溜所では、皆が本当に楽しそうに働いている。「私たちのモットーは『HAPPY PEOPLE MAKE HAPPY LIQUOR』。まずは人を幸せにするお酒を造りたいと願っている私たち自身が、楽しく仕事をするのが大切です」。蒸溜所には日本全国から人が集まってくる。夢はジンの本場ロンドンと食の都フランスで、ゴトジンが認められること。ヨーロッパの人たちがゴトジンに魅了され、福江島の風景を見たいとやって来る日も、きっとそう遠くはない。